

第612回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1 今治市小浦ポンプ場 今治市砂場町

住民生活にとって安全な水道水の安定した供給は、ライフラインとして欠かせない条件であり、圏域では7上水道事業、6簡易水道事業及び2飲料水供給施設が運営されており、水道施設も取水施設、浄水場、ポンプ場、配水池を含めると200箇所以上、導送配水管の延長は約1,700kmとなっている。しかし、水源や浄水場は、今治地域の3浄水場（小泉、馬越、桜井）及び越智諸島の台浄水場を除くと、いずれも小規模な施設で良質な水質の確保や維持管理経費などの問題から水道事業の統廃合が検討され、今治地域の玉川ダム、片山水源、桜井水源、越智諸島の台ダム及び朝倉地域の峠砂防ダムの5水源を最大限活用することとした。さらに、浄水場を47箇所から8箇所に集約し、広域送水管の整備を行うことにより水融通と水質・水量の良好な水源から安定的な供給を図り、住民に均一な水道サービスの提供を目指すとともに、維持管理費の削減による経営の効率化を図るものである。第1段階として、島嶼部の越智諸島水道事業と吉海簡易水道事業の統合を進め、吉海地域と越智諸島水道事業の一部区域に対し、来島海峡大橋に送水管を添架し、今治地域から送水整備に取り組んでいる。小浦ポンプ場は、広域送水事業の陸地部から島嶼部に送るためのポンプ施設である。



2 今治市宮浦浄化センター 今治市大三島町

今治市は多くの部分が瀬戸内海国立公園の区域に指定されている。このため、健康で快適な生活の提供と、美しい瀬戸内海の恒久的な保全是重要課題として、下水道事業の整備を進めてきた。現在は公共下水道が9箇所、また、農・漁業集落排水処理施設、コミュニティ・プラント等の集合処理施設31箇所とあわせて40箇所が稼動している。

宮浦浄化センターは芸予諸島の中心部の大三島の生活・水環境の改善を目的に、平成4年より特定環境保全公共下水道事業に着手した。平成9年度に一部供用し、12年度に完成した施設である。汚泥の処理は移動式汚泥脱水車を導入し、瀬戸内しまなみ海道で結ばれている大島と大三島の3施設で共用している。車載設備として巡回脱水を行うことで、経済的・効率的に運用している。また、省エネへ配慮し、太陽光発電による電力で、生物反応槽の曝気機の運転を行っている。なお、施設の処理面積は98haで処理人口は2,200人、処理水量は1,320m³/日となっている。



3 松山市市之井手浄水場 松山市溝辺町

松山市の上水道は、昭和28年の給水開始以来、市勢の飛躍的な発展とともに増大する水需要を賄うため、水資源に恵まれない自然条件を克服しながら、水源の確保や浄水場の建設、送配水管の布設など4次にわたる拡張事業を行い、施設の整備拡充に努めてきた。市之井手浄水場は、石手川ダムを水源として、昭和49年6月に完成し、松山市の約半分を賄う中核的な浄水場として建設された。ここで浄水処理した水は、主に松山市の中心部に給水している。

また、市之井手浄水場には「松山市水道資料館 水と人のみらい館」が併設されており、特に、小学生の施設見学として受け入れており、「学習ゾーン」「エントランスゾーン」「体験ゾーン」の3つのゾーンで構成された資料館で、水道のあゆみや水道水が家庭に届くまでの仕組み、自分たちの学校にはどの水道管を通して水が運ばれているのか、また水を活用した様々な体験ができる施設となっている。

